

## 「外国籍児童生徒に対する支援教育を考える」

11月26日(土) 10:00-12:00

教育学部B202教室において、教育学部公開講座「外国籍児童生徒に対する支援教育を考える」を開催しました。参加者は54名でした。教育学部の山田敏弘教授から、外国籍児童生徒に対する学校における日本語教育の役割やあり方についてお話いただきました。

母語と日本語の双方の修得困難というダブルリミットな状態におかれていること、生活言語ができて学習するための言語の修得が課題となること、それを本人の問題とするのではなく、言語習得のための条件整備が必要なこと、具体的には教科書の説明文を取り上げて、分かりやすい日本語で教えることができること等を解説いただきました。

「ダブルリミット」を「ダブルメリット」にしようと、大変示唆的なお話でした。特別支援教育の根本や広がりを考えるよい機会となりました。

今年度の公開講座はこれで終わりです。ご協力にあらためて感謝いたします。また来年度もよろしく願いたします。



